

# 学びの3つの次元での発達に関わる優先項目



**フォーカス**  
「私は空間の中でどこにいるか？」

この次元に含まれること:

- 光、音、匂い、湿り気などの感覚刺激に反応して動く経験
- 自分自身の身体の中で安心して持つ経験
- 筋肉の自己受容感覚の刺激で動く経験 — 自己受容感覚は筋肉内の“脳の細胞”とも呼ばれ、物理空間において四肢と繋がっている身体部分の位置を知る助けをする
- リラックスする経験と休む、座る、立つ、歩く、あるいは反射的な拳動をせずに動くために適切な筋肉を使う経験
- 身体的な境界の感覚

**体験**



**センタリング**  
「人々や場所、物との関係で私はどこにいるか？」

この次元に含まれること:

- バランス感覚と平衡感覚 — 重力に対し身体が垂直であると感じる能力
- 空間において自分の大きさと重さを感じる能力
- 上下、前後、左右、内外などの様々な方向に対し身体の中心を基準点として感じる能力
- 自分の内面を感じ、感情や感覚を自分のものとして認め包含する能力
- 外の世界と自身が繋がっているという感覚
- 目と手を協調して使う能力

**技能/有能さ**



**ラテラリティ**  
「私は誰か？」  
「それは何か？」

この次元に含まれること:

- 身体の両側を協調する能力
- 視覚の中央領域で両目を一緒に使う能力
- 身体の正中線を超えて物を追視する視覚能力
- 見ている物と聴覚、触覚、前庭系からの情報を合致させる能力
- 聴覚情報を自分のものにして処理するために音を識別する能力
- 人々や物の違いと類似に興味を示すこと。
- 要求を説明し経験を示すために発話と言語を使う能力（声を出して話すときや思考で）
- **能力と潜在能力**

出典:「I am the child: 特別支援を必要とする子ども達とブレインジムを使って」ケスター(フリーマン)とデニソン、1998年、2010年